

三重県、奈良県、和歌山県に派遣した 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の調査概要(第1報)

平成23年台風第12号に伴う大雨により、奈良県、和歌山県等で洪水氾濫、土砂崩れなどが発生し、公共土木施設等に大きな被害が発生していることから、三重県、奈良県、和歌山県からの要請を受けて、被災状況の調査、復旧方針等の技術的な支援、助言のため、国土交通省本省総括災害査定官、国土技術政策総合研究所室長等をメンバーとする緊急災害派遣隊(TEC-FORCE)を9月4日から派遣しております。

調査の概要についてご報告いたします。

【三重県調査概要】

- 9月5日～6日にのべ8人・日派遣中。
- 5日は、へりによる広域被災状況調査を実施。
- 熊野川では大きな河道埋塞はないが、紀宝町地内の沢から土石流が確認された。
- 県道740号線左岸法面は崩落箇所が多く、浅里地区は孤立状態。
- 尾呂志川で埋塞が確認されたため、次期出水にむけた対応を助言。
- 6日は、へりによる広域被災状況調査を継続予定。

【奈良県調査概要】

- 9月4日～5日にのべ10人・日派遣。
- 五條市大塔町辻堂にて土石流による道路、橋梁の被災箇所を現地調査。河道閉塞の形跡は確認されず。
- 五條市大塔町宇井にて、幅50m、高さ30m程度の河道閉塞跡を現地調査。現在は一部決壊し、河道閉塞は解消。
- 十津川村折立橋の落橋箇所について、桁や橋脚の被災状況の調査を行い、復旧方針について技術指導。
- 十津川村折立地区の迂回路、緊急物資の輸送路について、応急復旧時の留意点について技術指導。
- へりにより国道168号線を中心に上空からの被災状況調査を行い、十津川村長殿地区にて、現在も湛水中の高さ50m程度の大規模な河道閉塞を確認。
- 6日以降、地方整備局、国土技術政策総合研究所、(独)土木研究所が継続して調査。
- その他の地区においても河道閉塞の形跡を多数発見。

【和歌山県調査概要】

- 9月4日～5日にのべ8人・日派遣。
- へりにより、那智川、国道311号等の和歌山県内の河川、道路について広域的な被災状況調査を実施。
- 河川の決壊箇所や道路欠損箇所を多数確認するとともに、河道閉塞跡を確認。
- 特に、大規模な土砂災害が発生している国道311号（真砂（まなご）地区）、田辺市伏菟野（ふどの）地区については現地調査を実施。調査中にも土砂の流出が続いており、対策にあたっての留意点を技術的助言。
- 天然ダム（2箇所）については、地方整備局及び(独)土木研究所において、県と調整の上、共同で調査を進める予定。

問い合わせ先

水管理・国土保全局 防災課 災害対策室
課長補佐 堤 盛良(内線 35832)

代表 03(5253)8111
直通 03(5253)8461